

国指定史跡

う ら そ え じ ょ う あ と
浦 添 城 跡

発掘調査現場見学会



発掘調査で新たにみつかった城壁

2022(令和4)年 12月11日(日)

浦添市教育委員会

浦添城跡の歴史

浦添城跡は中山王の居城^{きよじょう}だった大型のグスクで、これまでの発掘調査^{はつくつちようさ}で 13 世紀末～14 世紀初頭に築かれ、14 世紀から 15 世紀初め頃に大規模なグスクになったと考えられています。政権の拠点^{きょてん}が首里城に移った後の 16 世紀初めには尚真王^{しょうしん}の長男・尚維衡^{しょういこう}が移り住み、その子孫の「浦添家」の屋敷となっていたようで、1589 年には尚維衡のひ孫・尚寧^{しょうねい}が第二尚氏第七代の国王となりました。1609 年に薩摩^{しまづ}の島津氏が琉球に攻めてきて、その折に浦添グスクは焼き払われてしまいます。

1945（昭和 20）年の沖縄戦では、浦添城跡のある丘陵^{きゅうりょう}が日本軍の陣地となり、米軍との間に激戦が展開され城跡は大きく破壊されました。また、戦後には大規模な採石が行われ、浦添城跡は大きく姿を変えられてしまいました。

浦添城跡の復元整備

1989（平成元）年に浦添城跡は国の史跡に指定され、これを機に復元整備事業がスタートしました。浦添市教育委員会では事業を四期に分け、第Ⅰ期事業として平成 17 年度までに浦添ようどれ^{えいそ}（英祖王の墓といわれ、後に尚寧王とその一族も葬られた）の主要部分の復元を行いました。

平成 18 年度からは浦添グスクの南側城壁復元等を行う第Ⅱ期事業を開始しました。すでに城壁の一部と、1597 年に尚寧王が整備したとされる石畳道の復元を行っています。

調査の目的

浦添城跡城壁の切石は沖縄戦で破壊され、更に戦後は復興資材^{ふっこう}として利用されたため、現在は一部を除き城壁がほとんど残っていません。ところが、近年^{ないかく}内郭西地区と呼ばれるエリアを調査していたところ、城壁が残っていることが徐々に明らかになってきました。今回の発掘調査は今後の復元整備に向けて城壁の位置や高さ、残存状況を確認することを目的として実施しました。

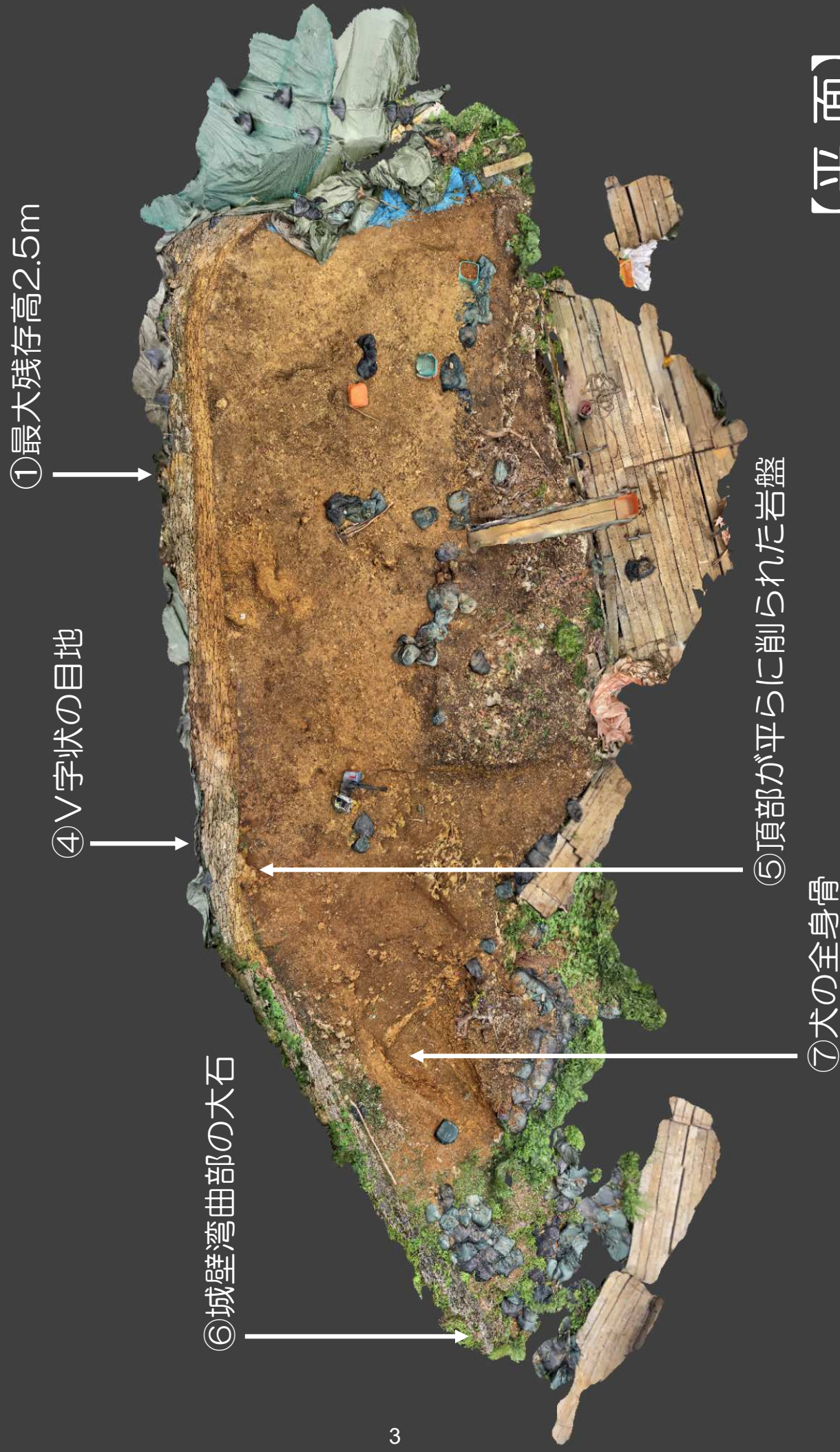
今回の発掘調査でわかったこと

- ①岩盤の上に構築された 14 世紀後半頃の城壁を確認しました。確認した城壁のラインは 30m を測ります。残存する石積は最大 13 段を数え、最大残存高は 2.5m を測ります。沖縄戦後に城壁の切石が石材として徹底的に持ち出された浦添城跡において、これだけの高さで城壁が残っている箇所は他にありません。
- ②城壁の長方形の切石を積み上げていく、「布積み^{ぬのづみ}」という技法で積まれています。切石と切石の間の目地に注目すると、重箱を積み重ねたように縦に通る箇所が多く認められ、これまでに確認した浦添城跡の城壁と共通します。このような積み方は布積みの中でも古い技法と考えられています。
- ③切石と切石の間に比較的小さな石を詰めている箇所があることに気が付きます。これは切石と切石の間を詰めて一体化させることによって城壁の強度を増す意図があったと考えられます。
- ④確認した城壁の西側（向かって左）で、目地が V の字状に見られる箇所を確認しました。これは、城壁を構築する際に西側から造ってきた集団と東側（向かって右）から造ってきた集団が、この場所で合流したことを示すものと考えられます。
- ⑤城壁の石材の一部が岩盤の上に載った状態で確認できました。この岩盤は石材を載せるため頂部のみが平らに削られており、自然に少しだけ手を加えるという当時の土木技術をうかがい知ることができます。
- ⑥城壁の直線部は 40×30cm ほどの石材が多いのに対し、湾曲部^{わんきょく}は 70×50cm という比較的大きな石を使用しています。力のかかる湾曲部は大きな石材を使用して、より丈夫に造っていたことがうかがえます。
- ⑦城壁の外側で成犬の全身の骨がみつかりました。関節がつながったままであることから、遺体の状態で一気に埋まった後に骨になったことが分かります。岩盤と岩盤の間のくぼみにあることや近くでも犬の全身骨がみつかることから、人の手によって埋められた可能性が考えられます。

今回の発掘調査の意義

先述の通り、浦添城跡の城壁は沖縄戦や戦後の採石で破壊が進んだためほとんど残っておらず、城壁が何処をどのように巡っていたかについては謎に包まれていました。そのような中でこれほどまでの規模で城壁が残っていることは、浦添城跡の発掘調査を長年にわたり実施している我々にとっても大きな驚きでした。城壁を確認するための発掘調査は今後も続きますが、浦添城跡の中で一番残りのよい城壁かもしれません。

※②と③は発掘現場の城壁全体に共通



【平面】

※②と③は発掘現場の城壁全体に共通

①最大残存高2.5m

④V字状の目地

⑥城壁湾曲部の大石

⑤頂部が平らに削られた岩盤

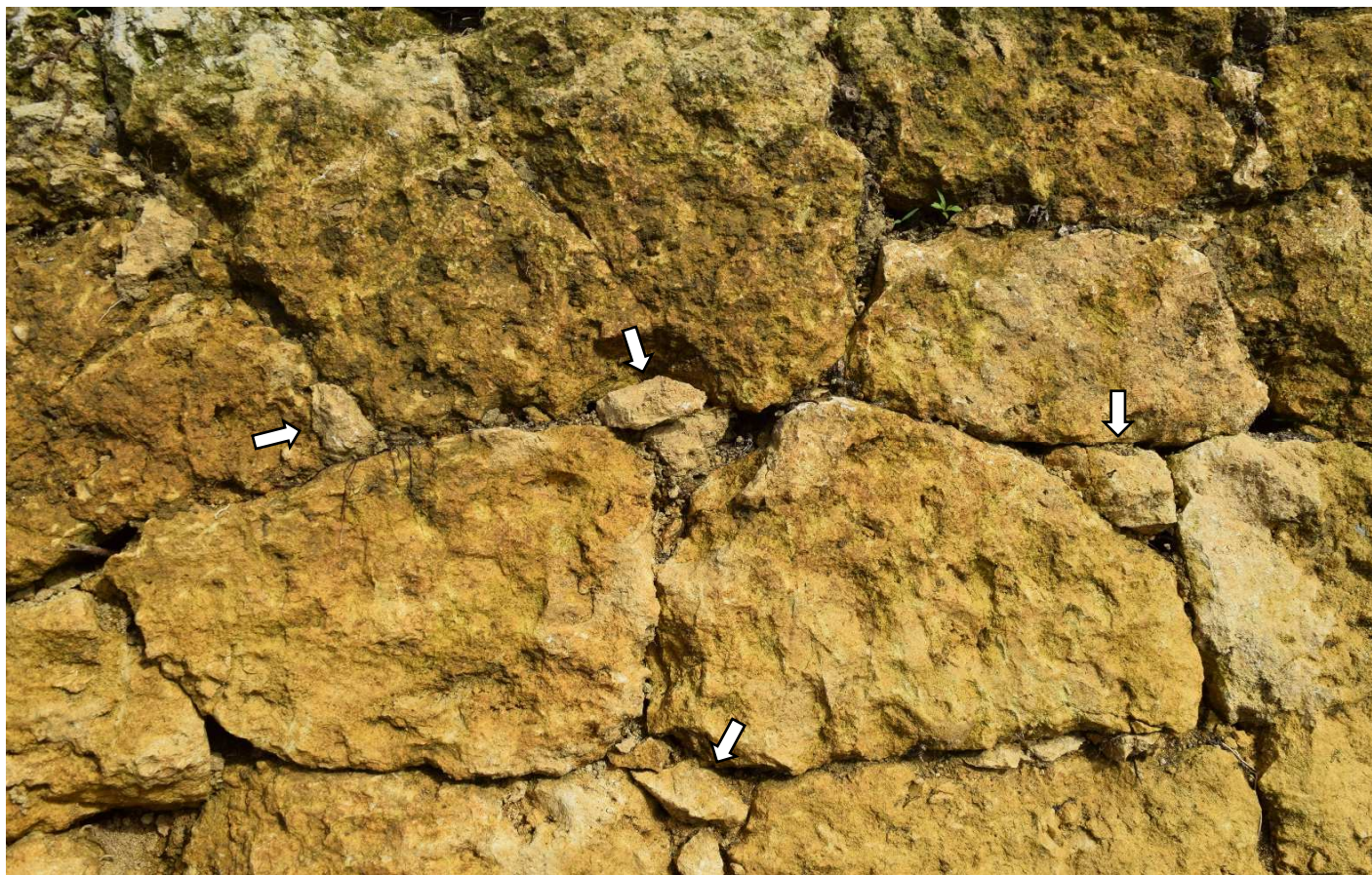
⑦犬の全身骨

【立面】





②縦方向に通る目地（点線）



③石材と石材の間の石（矢印）



④Vの字状の目地（点線）



⑤平らに削られた岩盤（点線・矢印）



⑥城壁湾曲部に据えられた大石

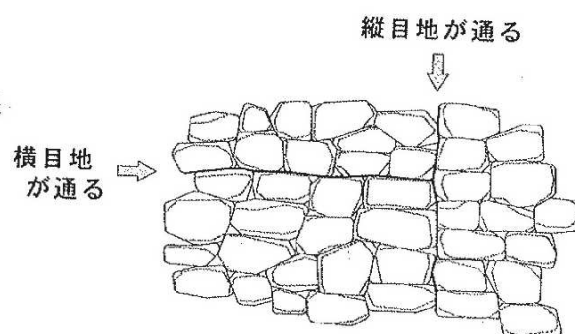


⑦犬の全身骨

簡単用語集

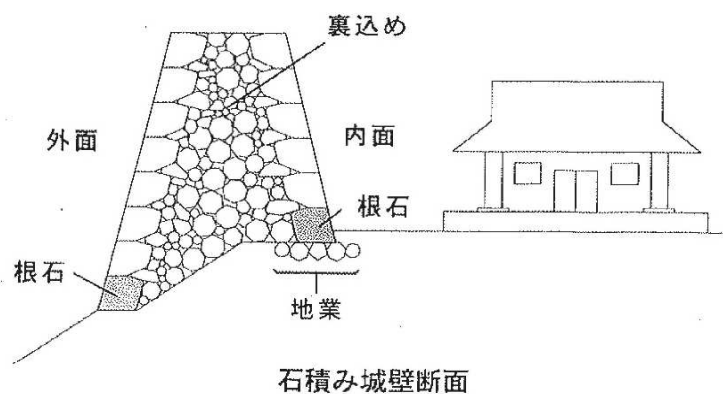
切石(きりいし)：石積などに使用される、面取りをした石材のこと。

目地(めじ)：石積などの継ぎ目のこと。
縦方向の縦目地、横方向の
横目地があり、目地が一直線
に続くことを「目地が通る」
という。



石積みの目地

裏込(うらごめ)：石積などの構造物の背面に石や砂利などを詰めたもの。
石とのかみ合いにより石積全体の安定性を増す働きをする。



9

浦添市史

好評発売中!



* 浦添市の歴史・文化・民俗・戦争記録など
よりくわしく知りたい方に**オススメ**です!

- | | | | |
|-------|--------------------|-------------|------------|
| ・ 第1巻 | 通史編 | 浦添のあゆみ | 定価 2,100 円 |
| ・ 第2巻 | 資料編 1 | 浦添の文献資料 | 定価 1,500 円 |
| ・ 第3巻 | 資料編 2 | 民話・芸能・美術・工芸 | 定価 2,000 円 |
| ・ 第4巻 | 資料編 3 | 浦添の民俗 | 定価 1,600 円 |
| ・ 第5巻 | 資料編 4 | 戦争体験記録 | 定価 1,500 円 |
| ・ 第6巻 | 資料編 5 | 自然・考古・産業・歌謡 | 定価 2,100 円 |
| ・ 第7巻 | 資料編 6 | 浦添の戦後 | 定価 1,800 円 |
| ・ 別 巻 | 総索引・近代歴史統計資料集・文献目録 | | 定価 2,100 円 |
| ・ 写真集 | 写真にみる浦添 | | 定価 700 円 |

・ **全巻セット**
10,000 円

編 集：浦添市史編集委員会

発 行：浦添市教育委員会

販売・問い合わせ

浦添市教育委員会文化財課

TEL：098-876-1234（内線 6216）まで

